

2013年 11月 29日

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 斎藤篤二

1. 概要

地域分類	北陸4
歩行区間	スタート地点: 中伏木駅 (富山県高岡市)
	ゴール地点: 甲(かぶと) (石川県鳳至郡穴水町市)
実施期間	2013.11. 13~16
全歩行距離	約 100km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	篠崎次郎	75	4日	
2	会計・記録	斎藤篤二	74	4日	
3	民宿ほか	松本明子	65	4日	
4	民宿ほか	松本美和	48	4日	
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離 km	歩行参加者	備考
1	11/13	伏木~阿尾	13	篠崎、斎藤、松本明、松本美	
2	11/14	阿尾~庵(いおり)	21	斎藤、松本美	
3		庵~七尾	23	篠崎、松本明	
4	11/15	能登中島~穴水	21	篠崎、松本美	
5		七尾~能登中島	21	斎藤、松本明	
6	11/16	穴水~岩車	10	斎藤、松本美	
7		甲(かぶと)~岩車	10	篠崎、松本明	

4. 参加費

参加者延べ日数 4日

4参加費合計 55,000円/1人

能登半島歩行記録(2013年)

11月13日(水) 晴れ,時々小雨 篠崎次郎、松本明子、松本美和、斎藤篤二

北陸本線高岡駅を10.27分に下車。

万葉線高岡駅10.45発 街並みと路面電車のイラストを楽しみながら15分後に今日のスタート中伏木駅で下車。4人パーティで出発。行く手に小矢部川があり南行し新しいS字橋を渡りJR氷見線の伏木駅から氷見線に沿って海岸線415号を歩く。1時間も行くと「雨晴」という地名の地区にでる。ここで昼食。地名の通り晴天が時雨に変わるが・・・ナントナント東の空近くに虹が出た。文字通り雨晴れである。ここから、氷見市まで波静かない海水浴場沿いの観光道路8kmを歩く。トイレは設置されている。14.45氷見駅際を通過北側に隣接する観光スポット「番屋」に立ち寄る。ここからやく2km先の阿尾の民宿「すがた」にゴールする。歩行距離13km

11月14日(木) 晴れ 1班 松本美和、斎藤篤二

今日の1班のゴールは庵(いおり)である。8時に民宿を出発し海岸線をほぼ北に向かう。富山湾越しの北アルプスが時間の経過とともに明瞭になっていく。厚着して出発したが歩くにしたがい暑い。休むたび上着を脱いてもなお暑い(17℃くらい)。海岸沿線は漁港や海水浴場。富山・石川の県境には海岸寄りの山道に閉鎖の立て札があるため、戻って迂回の自動車道を登って、下る。このあたりから北アルプスの威容が富山湾越しに眺望できる名所の海岸地区である。

朝方の海上のもやも消え信越,富山,加賀の峰々の大スペクタクルが展開した。黒部谷の奥には真っ白な端正な姿は鹿島槍か。剣岳は黒い溪谷が立体感を際立たせる。西には白山、何という雄大さ。12時佐々波(さざなみ)地区で昼食をとるため郵便局にお願いして客席を借用する、局長さん曰く今日の天気は1カ月に1回あるかないかだそうだ。その上お茶のもてなしに感謝する。このあと虫崎で斎藤は松本の荷を預かり歩行を終え、松本は単独、ゴールの庵に軽快にランニングで飛ばし行程完了。バスで集合場所の七尾に向かう。宿泊地は七尾線の穴水駅近くの民宿竹亭

歩行距離 21km

2班 松本明子、篠崎次郎

氷見市阿尾に民宿「すがた」から、氷見阿尾浦温泉 バス停より7時54分発脇行きバスに乗車 終点脇にてバスを乗り換え 庵へここから海岸線を七尾歩くのが本日の予定。庵で下車 8時40分歩行開始。天気は快晴、富山湾の向こうに北アルプスが見える。昨日の雪で後立山より西は雪で真白。剣、立山は雪が降らず黒い山並みが見える。こんな海岸線の風景を見ながらの気持ちのよい歩行が続く。江泊町を9時40分大野木町からは海岸線の道がなく内陸の山崎を通り川尻に向かう。このあたりの道は狭いが立派な家並みが続きとても雰囲気の良い所だ。中浦の郵便局でトイレ休憩、旅の話などして歩行再開、半

島の最先端、観音島まで行き、西に向かって防波堤の道を歩く。福浦の手前で巨大な LNG のタンクが出てきた。地元の観光地図にはあったがどうも場所が違う。さらに先に進むと又タンクが出てきた。ここは稼働中でローリー車が出入りしていた。ここが観光地図にあった LNG タンクで先に出てきたのは未だ建設中で地図に乗っていないことが分かった。ここで昼食を取り 12 時 40 分出発、再び海岸線の道に入る。しばらくすると太田発電所の煙突が見えてきた。広大な敷地をもつ発電所だ。正門近くまで歩き休憩。13 時 50 分歩きだす。太田町を通過、七尾市に入った。ここからは市内の歩行七尾駅には 15 時 10 分到着。今日は 23 キロの歩行となった。駅で 1 班と合流、穴水へ電車で行き宿に向かった。

11 月 15 日(金) 雨のち曇り 1 班 松本美和、篠崎次郎

穴水の宿 竹亭 から徒歩 5 分、駅からのと鉄道出 能登中島駅へ、ここから穴水駅までが本日の歩行予定。穴水発 7 時 25 分 能登中島で下車し 8 時 10 分歩行開始、駅から直ぐ国道を歩く。間もなく右折し集落の少ない海岸線の道に入る。深浦を過ぎ半島の内陸に入り小牧の集落で国道に戻る。国道に入る手前でよこさ鼻にある国民宿舎によりトイレ休憩。10 時 10 分国道に入り雨の中の歩行が続く。西岸駅から志浦まで海岸線の単調な歩行だが途中明治の館と言う庄屋の立派な屋敷がありさらに進むと無人の小さな集会所があった。ここで休憩を取り歩を進める。11 時 30 分のと鹿島駅に着く。駅の待合室で昼食、12 時 30 分出発、雨も上がり歩きやすくなった道を志浦から小さな半島に入り海岸線の道を歩く。途中海岸線の道は歩けず林道を歩いて行くと大仏があり寄り道してみる。大仏を遠くから見て戻りやがて国道に合流し穴水駅に向かう。駅には 14 時 30 分着、2 班の到着を待って宿へ行く本日の歩行は 21 キロ

2 班 松本明子、斎藤篤二

7.25 穴水発 七尾に 8.10 着。今日のコースは前半は市街地。雨のなか七尾駅を 8.20 分出発、海岸際の道を和倉に向かう。海岸線に沿う道を行くと車の通りも少ない。10.20 加賀屋をはじめ名だたる和倉のホテルの玄関前をとおる。なだらかな山道を越え、平地にでる。七尾西湾の海岸線に沿うように歩く。七尾線の田鶴浜の近傍を過ぎ 11.20 大パターゴルフ公園で昼食。雨のため誰もいない東屋で休憩するうち雨はやんできた。これから歩く地域は七尾西湾の穏やかな潟沿いの野鳥の天国。見渡す限り広い海面に野鳥群れが数かぎりない。大型の鳥はなべ鶴に似ている。型の大きい鴨が海面に浮かび、飛行するため助走するがその音がパワフル。牡蠣のいけすのある唐島まで湾沿いの道が曲線を描き見通せる。

ゴールは能登中島駅、14.20 着。歩行距離 21km

この駅は近くに仲代達也の率いる演劇場のある駅で駅として知られている。14.48 能登中島発 15.00 穴水駅 2 班と合流。宿は前日と同じ竹亭。ここの宿の食事はまるで割烹料亭だ。

11月16日(土) 晴れ 1班 松本美和、斎藤篤二

7.00 民宿出発 7.30 県総合庁舎まで市内を歩く。最短の道はGPSに頼る。タブレットの地図は山道や細かい小道はハッキリしないが、市中の道は明確で、遣い分けが要る。穴水港の東側の半島は結局1周し元の地点に戻った。海浜遊歩道を行き、ボラ漁やぐらを目の前に観る。今は無人である。高さ5mで簡素な丸太のやぐら上部の平板の上でボラの接近を知るせるらしい。

それからひたすらガードレールのあるこのうえなく危険な車道側の道端を歩く。人気のする枝道の看板に釣られ半kmの奥の民宿にトイレを借りる。まだスタート地点から4,5kmしか来ていない。鋳物博物館を通過。終戦直前に江田島の海軍訓練生養成所がほんの何カ月間ここに移転したところである。

10.00 中居ふれあいパークに休憩。10.40分2班と岩車の東で合流、めでたく10km完全歩行。予定より早く合流できたのは2班の頑張りのおかげである。

2班 松本明子、篠崎次郎

宿から穴水駅へ、駅から6時57分発の早いバスで兜診療所バス停で下車、穴水駅に向かって歩く。出会い方式なので1班と出会って終了となる。バス道は海岸線を忠実にたどっており、能登島を見ながらの歩行となる。遠くの北アルプスは良く見えない。バス道は海岸線沿い特有の曲がりくねって小さな上り下りの多い道だ。特に観光すべき目玉も無い。椿崎マリーナのバス停の海岸には多くの船が停泊していた。近くに別荘地もあり評判は良いとの話だった。このマリーナが唯一のトイレが借りられるところだった。このあたりから山に藪椿が自生しており花もちらほら見られた。山側の椿は1キロ程続いていた。東岩車には老人ホームもあり再開発された所ようだ。岩車のバス停を過ぎさらに足を進めたところで1班と合流、タクシーを呼んで穴水駅に帰る。駅で昼食をすませ帰京した。

以上